

靴の歴史散歩 ⑧6

皮革産業資料館 副館長 稲川 實

向島須崎村一番地（現・墨田区向島5-8の内）にあった西村勝三の櫻組製革所が、どんな工場であったのかは、遺された資料が少ないので、これまでまったく窺い知ることができなかった。

もう十年ほど前になるが、『日本の名勝』（明治34年 史伝編纂所発行）という意外な表題の本から、偶然にも向島櫻組の会社案内と写真が掲載されているのを発見した。

業界初見の資料出現ということで、さっそく「靴の歴史散歩」⑤②（1999年3月31日発行）に、その詳細を報告したから、ご記憶の方もあろうかと思う。

向島櫻組が、千住中組1190番地（現・足立区千住橋戸町(株)ニッピの内）に、移転直前の姿をとらえた貴重な写真だけに、本当にうれしい出会いであった。

前々号から続く『櫻組製造品定價表』の34ページに、願ってもない工場全景の銅版画が掲載されている。これを眺めながら話を進めて行こうかと思う。

工場全景の銅版画と、工場門前の写真を双方見比べていただくと、より立体的に向島櫻組を確認できるかと思うので、写真の再掲載をお許しいただいた。

工場敷地は3千坪はあったはずだから、さすが堂々たる工場全景である。

堤通りに面して工場の入口があり、工場裏手はもちろん隅田川である。兵舎の

ような木造の工場建物が、行儀よく八棟ほど並んでいて、大きな煙突も威勢よく煙りを吐き出している。工場の突き当りには、煉瓦造りの事務所か、倉庫らしき建物などが見える。

櫻組に関係はないが、絵の右手遠景に、山容からそれと分かる筑波山が描かれている。この方位では背後にしか見えないはずだから、無理を承知の絵心、遊び心なのであろうか。

